

# 話すこと・聞くこと

## 第1学年

大事なことを意識して聞き、そこから質問を見つけること

### つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

大事なことを意識して聞き、そこから質問を見つけることができない。

知りたい情報を聞き取れず、インタビューが続けられない。

元の質問に戻ってしまっている。

A：今、一番楽しいと思っていることは何ですか？

B：ピアノです。

● A：わかりました。

● A：ピアノは楽しいですか？

### 実践の概要

単元名

きいて しらせよう

『ともだちに、きいてみよう』光村図書

目標 大事なことを意識して聞き、そこから質問を見つけることができる。

内容 ・友達に聞いてみたいことを話し合う。

・2人組でインタビューをし合う。

・インタビューしたことを、みんなに知らせる。

### 学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容（単元名）	つまずきの実態
第6学年	立場を明確にして主張し合い、考えを広げる討論をしよう	話し手の意図をとらえながら聞き、話の展開に沿って、助言をすることができない。
第5学年	田鶴野小を良くするために提案書を書こう	話し合う場面で、異なる意見を一つにまとめられない。
第4学年	大事なことを落とさない聞き取りメモ名人になろう	話し手の伝えたい大事なことを聞き落とさず、工夫してメモすることができない。
第3学年	幼稚園さんに学校生活の様子をつたえよう	互いの考えの共通点・相違点を的確に見つけられないために、意見がまとまらない。
第2学年	つたえたいことが聞く人によくわかる「あったらいいな、こんなもの発表会」をしよう	話し手が話した内容について、質問・アドバイス・感想が言えない。
第1学年	きいて しらせよう	大事なことを意識して聞き、そこから質問を見つけることができない。

### 単元末の目指す姿

- ・「いつ」「どこで」「だれと」など5W1Hの情報を相手から入手するためにインタビューし、臨機応変に質問したり答えたりすることができる。
- ・インタビューでわかったことを知らせたり聞いたりする活動に意欲的に参加し、友達により高い興味・関心をもつ。

### つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

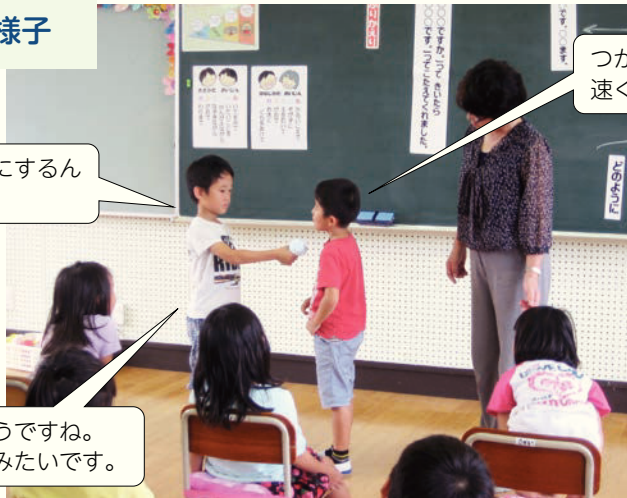
付属CDや、インタビューを続けるのが上手な児童をモデルとして提示する。

活動のねらい▶ ・どんなふうに切り返せば、インタビューが上手くつながるかがわかる。

ここが  
ポイント

まず、付属CDの声量や口調を真似る学習をして、ある程度「インタビュー」の形態を整える。その中で、相手の答えに対して自分の感想などを言ったり、答えを聞いてさらに詳しくたずねたりする部分が難しい。そこで、実際に切り返しができている児童にモデルとしてインタビューをさせる。この時、質問する側もその場で答えられる児童を選ぶ。ペアのモデルを提示して、インタビューの面白さを伝える。

#### 授業の様子



どんなふうにするんですか。

つかまらないように、速く走ります。

おもしろそうですね。ぼくもしてみたいです。

#### (期待される児童の姿)

相手の発言に合わせて質問したり答えたりできる児童をモデルとして提示することで「質問のバリエーションが多く、自然な切り返し等ができていいるインタビュー」を具体的にイメージできる。また、自分もしてみたいという意欲も高まる。

### つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

「いつ」「どこで」「だれと」など、5W1Hが情報に入っているかを聞き取るよう指導する。

活動のねらい▶ ・知りたい情報の基本的な事項を意識することで、大事なことを落とさずに聞いたり、質問したりすることができる。

ここが  
ポイント

5W1Hは、日記やスピーチなどで日常的に意識させる。その上で、インタビューの場面でも利用できることを知らせる。インタビューを受けるときにも、5W1Hを記入したメモを用意させる。インタビュー後のワークシートも、5W1Hの項目別に記入できるように枠を作る。

#### 授業の様子



項目：いつ・どこで・だれと・どのように・そのほか(気持ちなど)

インタビューしたことを書いておこう。これで、みんなに知らせられるぞ。

#### (期待される児童の姿)

「いつ」「どこで」「だれと」「どのように」という情報を聞き出すとよいことを知り、ここから話題に入っていける安心感をもって質問につなげられる。また、求めている情報が手に入ったかの判断材料にすることもできる。